

OpenRTM-aist (Python) - 機能 #3405

起動時にコンポーネントをアクティベーションする機能（非同プロセス）

2015/12/22 09:44 - n-ando

ステータス:	終了	開始日:	2015/12/22
優先度:	通常	期日:	2016/03/25
担当者:	miyamoto	進捗率:	100%
カテゴリ:		予定工数:	20.00時間
対象バージョン:	RELEASE_1_2_0		
説明			
コンポーネントコンフィギュレーションファイルに設定することで、起動時にネームサーバに登録されているコンポーネントをアクティベーションする機能を実装すること。			

関係しているリビジョン

リビジョン 665 - 2016/02/26 19:11 - miyamoto

[compat,->RELENG_1_2]The processing in initPreActivation() method has been changed. refs #3405

履歴

- #1 - 2016/01/14 16:18 - miyamoto
- 期日 を 2016/03/25 にセット
 - 担当者 を miyamoto にセット
 - 対象バージョン を RELEASE_1_2_0 にセット
 - 予定工数 を 20.00時間 にセット

- #2 - 2016/02/26 18:37 - miyamoto
- 進捗率 を 0 から 50 に変更

[#3402](#)で実装したinitPreConnection関数内に非同プロセスで起動したRTCをアクティブ化する機能を追加した。

具体的には[#3411](#)のrtclloc形式、およびおよび[#3401](#)で実装したrtcname形式が利用できる。

rtc.confには以下のように記述する事でアクティブ化が行われる。

```
manager.components.preactivate:rtclloc://localhost:2810/example/TestComp20, TestComp10
manager.components.preactivate:rtcname://localhost:2809/test.host_cxt/TestComp20, TestComp10
```

添付のコードのtest_PreActivation関数でテストを行った。

まず2つのプロセスを起動し、マネージャのinit関数で別プロセスで起動したRTCをアクティブ化するように設定する。そしてtest_PreActivation関数内でis_in_active関数でアクティブ化できたかを確認した。

- #3 - 2016/03/17 11:00 - miyamoto
- 進捗率 を 50 から 100 に変更
- #4 - 2017/08/30 14:19 - n-ando
- ステータス を 新規 から 終了 に変更